

日本大学学術研究助成金研究課題フォーラム

『大学地域連携研究の学問的基盤と人材育成に関する研究
－スポーツ教育事業の検討から－』

持続性のある大学地域連携のあり方

日 時：2024年11月30日（土） 14：00～15：30

場 所：日本大学文理学部 本館ラーニングコモンズ

伊佐野 龍司 氏
(日本大学文理学部)

地域支援を通じた体育・
スポーツ指導者育成

阿部 百合子 氏

(日本大学医学部社会医学系医学教育学分野)

地域医療・医学教育の観点
からの大学地域連携

宮脇 健 氏

(日本大学危機管理学部)

災害教育の実践から考える
大学の地域連携の可能性

土屋 弥生 氏

(日本大学文理学部)

大学と地域・学校の協働
－教職ボランティア・
インターンシップの課題と展望－

◇司会 鈴木 理 氏 (日本大学文理学部)

参加費無料・事前申し込み不要

後援 大学地域連携学会

【各登壇者の発表要旨】

地域支援を通じた体育・スポーツ指導者育成 伊佐野 龍司 氏(日本大学文理学部)

本学科のスポーツ教育学ゼミナールでは、学生の実践的な指導機会の確保として、地域の子どもたちを対象にしたスポーツ教室を継続的に実施している。こうした活動を持続可能にするためには、地域の学校・団体との連絡・調整や、参加学生に向けた「計画－実践－省察」といった一連の指導など、構造的・個人的観点を踏まえたアプローチが鍵となる。本フォーラムでは、上述の取り組みの実際と今後の展望・課題について発表する。

地域医療・医学教育の観点からの大学地域連携 阿部 百合子 氏(日本大学医学部社会医学系医学教育学分野)

近年、地域医療の医学教育は益々重要である。医学生の学修目標等を示した医学教育モデル・コア・カリキュラムの地域医療実習の項目は、低学年から継続的に地域医療の現場に接する機会を設けること等を示している。卒後に特定の地域や診療科で診療を行う事を条件とした地域卒の入学では、大学医学部と地域との連携が欠かせない。臨床研修は、地域医療研修が必修である。低学年から卒後に至るまで、大学地域連携は必要不可欠である。

災害教育の実践から考える大学の地域連携の可能性 宮脇 健 氏(日本大学危機管理学部)

本報告では、本学部で主に報告者が実践している災害または危機管理に関わる事例をとおして大学の地域連携について実例を報告する。また、いくつかの事例を通して、大学として地域連携が継続するパターンとそうではないパターンがなぜ生じるのかを検討し、持続可能な大学地域連携の可能性を提示したいと考えている。

大学と地域・学校の協働－教職ボランティア・インターンシップの課題と展望－ 土屋 弥生 氏(日本大学文理学部)

教育現場の多忙化が問題となる現在、学校と地域の協働が重視されている。そして、地域と共に学校を支える教職ボランティア・インターンシップが注目されている。教職志望学生にとっても、地域や学校にとっても有意義な体験学習とはどのようなものなのか、その課題と展望について検討する機会としたい。